EL SALVADOR

学校名：長岡市立才津小学校

氏名： 渡辺　登

［担当教科：社会、外国語活動］

- 実践教科等： 社会科
- 時間数　： 6 時間
- 対象生徒 ： 小学校 6 年生
- 対象人数 ： ２３人

1 単元名

世界の人々とともに生きる

2 単元の目標 （ESD の能力・態度）

（1）世界の中の日本の役割について理解し、外国の人々と共に生きていくためには、A.異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、B.我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。（多面的・総合的に考える力）

（2）発展途上国の社会の発展に対して、C.日本が資金協力だけでなく、持続可能な社会づくりを目指して技術協力にも力を入れていることを考えるようにする。（多面的・総合的に考える力）

3 ESD（持続可能な社会づくり）の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性

・D.日本とエルサルバドルの食文化学校の様子等の相違点に気づく【多様性】

・E.世界平和を維持していくためには、相互依存や共生の考え方が大切だということに気づく【相互性】

・F.JICA のエルサルバドルに対する支援の様子を知り、JICA が現地の問題解決のために様々な方法を考えながら活動していることに気づく【連携性】

4 単元の指導について

（1）教材観

前単元「平和への歩みを見直そう」の学習では、「二度と戦争を起こさないためには、戦争の悲惨さを語り継いでいくことと、外国の人々と仲良くすることが大切」と児童とまとめをした。本単元では、前単元の学習を受けて「外国の人々と仲良くなるためにできることは何か」を単元を貫くテーマに設定した。

学習指導要領社会科では、「外国の人々の文化や習慣、日本人が世界の平和のために果たしている役割や国際連合の働き、地球環境について学ぶことを通して、外国の人々と共生するためには相互理解・相互協力が必要であることや、世界平和の大切さ、日本が世界において重要な役割を担っていることを理解させる」ことをねらっている。本実践では、以上のことを踏まえ、エルサルバドル共和国の文化や習慣、日本人ボランティアや JICA 専門家などの行っている活動を題材に学習を進めていく。

（2）児童観

社会科の学習には意欲的に取り組んでおり、各種テスト結果からも知識・理解力は高いといえる。一方で、本単元のテーマである「外国の人々と仲良くすること」については、事前アンケート（後述8参照）によると「スポーツ交流をする」「挨拶をする」以外に具体的な姿が描けていない実態があることが分かった。そこで、本単元の学習を通して、外国の人々と仲良くするためには何が必要なのか、エルサルバドルの様子や、JICA の活動を学ぶ中で考えを深めていく。そして、総合的な学習で行う長岡技術科学大学の外国人留学生との交流事業で実際にかかわる中で、考えたことを実践していく。

（3）指導観

海外への渡航経験がない児童の中には、「外国は危険」という先入観をもっている児童がいる。そのような中で治安上の問題を取り上げると「日本に生まれてきてよかった」と安易に考えることが予想されたため、本単元では、児童労働の解消について取り上げることにした。児童労働を身近な問題として捉えるために、エルサルバドルで広く食べられているププサの試食を行う。エルサルバドルではププサの原料であるトウモロコシを栽培するために一部で児童労働が行われている。児童労働のつらさを実感させてから、児童労働解消のためのプロセスを考える活動をグループで行う。エルサルバドルの子どもたちを助けるためのアイディアを出し合う活動を組むことで、より意欲的に学習に取り組めると考えた。

5 評価規準

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
評価規準	発展途上国の課題や、その問題解決に取り組む JICA や国際機関の働きに関心をもち、進んで調べようとする。	JICA や国際機関の支援の方法について考えを深め、資金協力や技術協力の意味を考える。	写真やグラフから社会的事象を読み取り、考えたことを分かりやすく表現する。	発展途上国の課題や JICA や国際機関の働きについて知る。
評価方法	発言やワークシートの記述	発言やワークシートの記述	ワークシート	ワークシートや単元テスト

6 単元の構成

時	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	エルサルバドルを知ろう① （食・生活習慣・学校）	①エルサルバドルの様子に関心をもつ。 ②エルサルバドルと日本を比較し、相違点を考える。	・ププサともちから、食文化の違いに気づく。 ・日本とエルサルバドルの気候の違いを読み取り、住宅の違いとの関連を考える。 ・学校の様子をフォトランゲージで比較する
2	エルサルバドルを知ろう② （自然災害、治安問題、児童労働）	③資料を適切に解釈し、社会的事象を正しくとらえる。 ④エルサルバドルの様子や社会問題について知る。	・自然災害の多さを資料から読み取る。 ・児童労働などの問題を資料から読み取る。 ・学校に通う児童の健康を増進するための学校で行っている間食について知る。
3	こんなところに日本人 ～エルサルバドル編①～ 授業板書	①国際協力活動に関心をもつ。 ②JICA による開発途上国の支援の仕組みを考える。 ③資料を適切に解釈し、考えたことを分かりやすく発表する。 ④日本が行っている資金援助と技術協力の様子を知る。	・児童労働が戦後日本にもあったことや、国際的な支援のおかげで復興できたことを知る。エルサルバドルで活躍する日本人ボランティア・専門家の活動を通して、JICA には技術協力と資金協力の2つの活動があることを知る。技術協力や資金協力がどのように現地住民の持続可能な生活向上に役立つことを考える。
4	こんなところに日本人 ～PNG 編～ 講師：JICA 新潟デスク 本田　龍輔さん 	②国際協力活動に大切な要素を考える。 ④JICA のボランティアの概要を知る。	・講演会から青年海外協力隊のPNG（パプアニューギニア）での活動について知る。 ＜講演会後の児童の感想＞ ・私は「しかつこ」の話が印象に残りました。今、PNG では、森林減少で困っています。だから、「こ（行動する）」を意識して、少しでも自分にできることを考えていきたいです。 ・幸せについて考えました。PNGの人達は、「お金がなくても、家族と食べ物があれば幸せです」といっていたそうです。私もこれからできることを考えたいです。
5	こんなところに日本人 ～エルサルバドル編②～	②石田さんの防災教育活動がどのようにして現地の人々の持続可能な社会づくりにつながるのか考える。 ④JICA の資金協力の意義とその効果について知る。	・石田ボランティアの防災教育活動がどのような成果を上げ、持続可能な社会づくりに役立つのか考える。 ・JICA の資金協力により、牛乳が作られ、地元の小学校に配布され、児童の健康増進役立っていることを知る。
6	ユニセフや国連の働き	①ユニセフや国連の働きに関心をもつ。 ②子どもの権利条約や国連での日本の働きなどについて考える。 ④ユニセフや国連の働きについて考える。	・ユニセフのエルサルバドルで起きた大洪水の支援の資料を基にユニセフの活動について考える。ユニセフは国連の一つの機関であることを確かめ、その他の国連の活動を調べ、国同士が相互依存の関係にあり、お互い協力していく必要があることを考える。

7 授業事例の紹介　小単元名【こんなところに日本人～エルサルバドル編】

（1） 指導案

（ア）実施日時　12月　3日（水）第5限

（イ）実施会場　6年生教室

（ウ）本時の目標

＜①社会的事象への関心・意欲・態度＞エルサルバドルで技術協力活動をする日本人に関心を持ち、資料などから意欲的に活動を調べようとする。

＜②社会的な思考・判断＞日本の技術協力や資金協力による開発途上国の支援の仕組みを考える。

＜③観察・資料活用の技能・表現＞写真から日本人ボランティアの活動の様子を読み取ったり、考えたことを分かりやすく発表したりする。

＜④社会的事象についての知識・理解＞JICAの活動の概要（ボランティアを通じての技術協力や資金協力の実際）について知る。

（エ）指導のポイント

本時のねらいに迫るために以下の3つのポイントを重視した。

＜ポイント①＞「児童労働」をメインテーマにする。

学校に行けずに働いている同じような年齢の子どもがエルサルバドルにいることは、児童にとって衝撃的だった。単元の初めに食べたププサの原料のトウモロコシは、エルサルバドルの児童労働によって作られたものだと想像する児童もいた。遠い異国の地の出来事であるが、同じ子どもが関係する問題を主軸に据えることで、児童の追求意欲が高まると考えた。

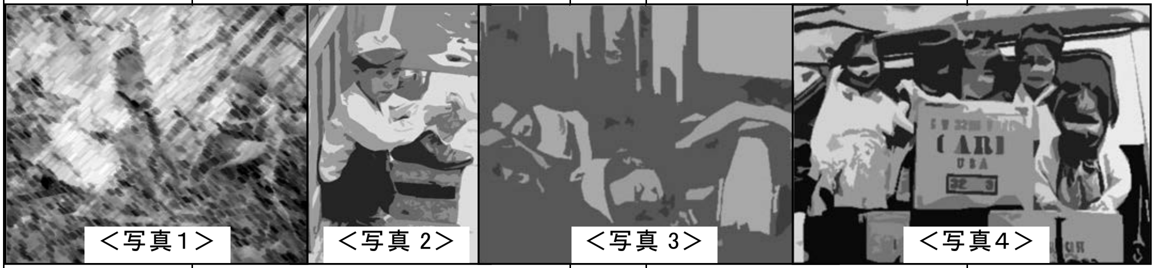
＜ポイント②＞「児童労働」解消のためのプロセスを話し合う活動を行う。

日本の技術協力が現地の問題解決につながるプロセスについて児童はほとんど知らない。今回は、児童労働という問題解決に対して、可児専門家の貝類養殖の技術協力がどのように作用するのかについてグループで話し合う時間を設定した。その際、「持続可能な社会づくりにつながるもの」というルールを設定した。

＜ポイント③＞児童の思考の流れを意識した単元構成を組む。

1時間目 日本とｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙの違いを楽しむ	2時間目 ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙの問題点をつかむ	3時間目 JICAの活動の意義や方法を考える	5時間目 JICAの技術協力と資金協力を知る
ププサ試食「おいしい！」	トウモロコシ栽培の児童労働	貝類養殖技術協力がどのようにして問題を解決することにつながるのか（可児専門家）	防災教育により、被害を少なくすることができる。（石田ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ）
熱帯の気候「1年中Tシャツ1枚！いいなあ」	クリル貝採集の児童労働		
	地震・台風などの自然災害		
「休み時間におやつタイムがある！」	児童の健康増進のための給食	JICAの活動の意義の確認	牛乳の生産施設の整備により、学校給食の質が向上する。（JICAの資金協力）

（オ）本時の展開

過程 時間	指導内容	学習活動	指導 形態	指導上の留意点	評価 （評価規準・評価方法）
導入 8分	・日本にも児童労働があったことをつかみ国際支援が行われたことを知る。	・児童労働について前時を振り返る。＜写真1＞ この写真はどこの国の写真でしょうか。（ﾌｫﾄﾗﾝｹﾞｰｼﾞ） ・戦後の児童労働の写真を示す。＜写真2、3＞	全体	・写真を示し、キーワードを板書する。 ・日本にも児童労働があったことをおさえる。	・児童労働について関心をもつ。（①…発言）
	 ＜写真1＞　＜写真2＞　＜写真3＞　＜写真4＞				
		この写真はどこの国の写真でしょうか。（ﾌｫﾄﾗﾝｹﾞｰｼﾞ） ・「ケア物資」＜写真4＞の写真を示して資料から日本が戦後受けた支援について気づく。		・戦後7年間にわたり、4000億円の支援があったことをおさえる。	

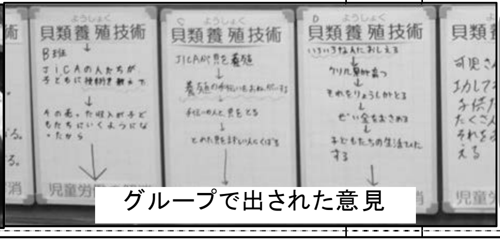
	・学習問題を立てる。	日本はエルサルバドルに対して何か援助をしているでしょうか。			
		・援助内容について予想を立てる。 ・JICAの存在があることを伝え、学習問題を作る。		＜実際の授業では＞「どんな援助をしているか」との問いには「お金をあげている」「生活物資を渡している」「手助けしている」などで、技術協力と答える児童はいなかった。	
学習問題：「JICA」は何をしている団体なのだろう？調べてみよう。					
展開 32分		この写真の日本人は何をしている人でしょうか？写真をもとに考えてみよう。			
	・写真より日本人専門家の活動を知る。	・ｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙのJICA専門家が何の仕事をしているか、3枚の写真から連想する。	全体	・可児さんがJICAを通じてｴﾙｻﾙﾊﾞﾄﾞﾙで活動していることを押さえる。	・写真から隊員の活動の様子について読み取っているか。（③…シート、発言）
	可児専門家の技術協力がエルサルバドルの人々にどのように役立っているのだろう。				
	・技術協力がどのようにエルサルバドルの人々の生活向上に役立っているのか考える。	・グループごとに貝類養殖の技術支援がエルサルバドルの人々の生活の向上にどのように役立っているのか班ごとに予想し、そのストーリーをホワイトボードに書く。 ・グループごとにストーリーを発表する。	班	・「貝の養殖技術を教える」「貝を探すのは大変な重労働」「貝はマングローブ林で育つ」「児童労働」「収入の安定」について必要に応じておさえる。	・ストーリーを考え、班で話し合っているか。（②…シート） ・わかりやすい発表か（③発言）
	・児童の発表をまとめ、JICAの技術協力の仕組みを知る。	＜まとめ＞貝類養殖の技術協力により、貝類の種苗生産を行い、マングローブ林で袋に入れて育てることで、収穫を容易にする。漁民の収入の安定化を果たすことで児童労働の解消につなげようとしている。		・技術協力が持続可能な社会づくりにつながることをおさえる。	
	・その他の活動がどのように人々の生活向上につながっているかおさえる。	・石田夏樹ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･･･防災教育（技術協力） 災害を防いだり、避難や応急手当の方法を学んだりすることで、地震に対する備えを強くする。 ・JICAの資金協力を受けての牛乳生成施設の建設により、地元の学校のレファクシオン（軽食）に牛乳が提供され、児童の健康の向上に役立っている。（資金協力）			
まとめ：JICAは、エルサルバドルの人々の持続可能な生活向上のために、技術協力と資金提供などの活動を行っている。					・JICAの活動は、技術協力と資金提供があることが分かるか。（④…シート、発言）
終末 5分	・授業の感想や知りたいことを書く。	＜児童の感想より＞貝の養殖を網に入れて行うことで児童労働の解消につながることが分かりました。エルサルバドルに協力している日本人がいてうれしかったです。可児さんの活動で児童労働がなくなってほしいと思います。			

JICA 可児専門家

クリル貝の種苗

種苗のえさの培養施設

話し合いの様子



グループで出された意見

＜実際の授業では＞
「クリル貝の種苗をJICAが育てて、漁師に無料で配る」「貝を売ったお金で税金が増え、その税金で子どもを学校に行かせる」など子どもたちなりの発想から意見発表ができた。

（2）授業の振り返り　※◎成果　▲課題

＜①社会的事象への関心・意欲・態度＞エルサルバドルで技術協力活動をする日本人に関心を持ち、資料などから意欲的に活動を調べようとする。

◎ププサを試食し、その原料のトウモロコシ栽培で、エルサルバドルでは児童労働が行われていることを知り、児童労働の解消に JICA の活動が役立っていることに関心をもつことができた。

＜②社会的な思考・判断＞日本の技術協力や資金協力による開発途上国の支援の仕組みを考える。

◎貝類養殖技術協力活動が児童労働解消につながるプロセスについてグループ内で話し合いを行った。「貝の育て方を漁師に教える」「JICA が貝の種苗を育て、漁師に無料で配る」などのアイディアが出され、子どもたちなりに技術協力のプロセスを意欲的に考えることができた。

▲一方で全体で話し合う時間がほとんどなく、プロセスを全体で練り上げる時間が取れなかった。グループごとに出されたアイディアを全体で話し合うことで、思考がさらに深まると考える。

＜改善策（Action）＞第 5 時に防災教育を例に防災教育がどのようにして持続可能な社会づくりにつながるか考える活動を同様に行い、グループの発表をもとに全体で意見を練り上げることで、防災教育がそれを広め、住民達だけで行えるようになることで持続可能な社会づくりにつながる技術協力であることを考えることができた。

＜③観察・資料活用の技能・表現＞写真から日本人ボランティアの活動の様子を読み取ったり、考えたことを分かりやすく発表したりする。

◎写真から得られる情報をもとにグループでの話し合いを行った。教師海外研修で撮影した写真が役立った。ホワイトボードにグループの意見をまとめたことは、発表のしやすさにつながった。

＜④社会的事象についての知識・理解＞JICAの活動の概要（ボランティアを通じての技術協力や資金協力の実際）について知る。

◎JICA の活動について、技術協力と資金協力の 2 つに分けて学習した。貝類養殖の技術協力が児童労働解消につながるプロセスについてはおおむね理解することができた。資金協力の様子については、牛乳生成施設の建設が、現地の子どもたちの健康増進につながることを理解できた。

（3）使用教材　※以下は第 2 時に使用したワークシート

1 年間の日本とエルサルバドルの地震の回数を読み取り、比較する。写真から地震被害の大きさをつかむ。さらに、200 万人が出稼ぎに国外へ出ていることを伝え、残された家族が地震に遭ったときのことを想像させた。

フォトランゲージに使用した写真をはり、手元で見れるようにした。メモ欄を設け、気づいたことや感想を書き込めるようにしている。

<児童の感想より>もし地震が起きた時に、頼りになる大人がいなかったら、私だったらパニックになると思います。子どもたちだけでは大変です。

（4）参考資料等　フォトランゲージで使用した写真の出典を以下に示す。それ以外は現地にて撮影

＜写真 1＞「マングローブ林でカニをとる少年たち」　https://www.worldvision.ca/aboutus/media-centre/pages/default.aspx
＜写真 2＞山田實「靴磨きの少年」那覇市国際通り 1956 年　http://curatory.exblog.jp/20951402/
＜写真 3＞「名古屋駅で靴磨きをしている少年たち」1947 年　http://tokyokushu.blog.so-net.ne.jp/2013-11-01
＜写真 4＞「CARE 物資を受け取り、喜ぶ子どもたち戦後」　http://www.careintjp.org/news/a/care_3009.html

8　単元を通した児童の反応/変化

（1）学習前アンケートと単元の振り返りより　児童アンケートや振り返り作文を以下のように分類した

学習前アンケート「外国の人と仲良くするためにできることは何か」		学習後　単元の振り返り作文の分類（複数回答）「外国の人々と仲良くなるためにできることは何か」			
分類	人数	分類	ESD の視点	ESD の能力・態度	人数
一緒に遊ぶ・スポーツする	18 人	一緒に遊ぶ・スポーツする		コミュニケーション力	18 人
挨拶をする	8 人	お互いの文化を楽しむ活動をする	多様性	コミュニケーション力	8 人
一緒に問題を解決する	3 人	困っていたら助ける	連携性	他者と協力する態度	5 人
困っていたら助ける	3 人	一緒に食事をする		コミュニケーション力	5 人
文化を教える	3 人	コミュニケーション能力を高める		コミュニケーション力	5 人
プレゼント交換をする	3 人	震災の経験を生かし、外国の役に立つ	連携性	他者と協力する態度	2 人
英語を覚える	2 人	互いの違いを認め合う	多様性	つながりを尊重する態度	2 人
日本語を教える	1 人	お互いの国を理解する	多様性	つながりを尊重する態度	2 人
食事をする	1 人	税金を使って外国の人を助ける		他者と協力する態度	2 人
同盟を結ぶ	1 人	持続可能かどうか考える	未来像を予測して計画を立てる力		2 人
		外国をよく知る	多様性		2 人
		しっかりと先のことを考える	未来像を予測して計画を立てる力		1 人

		日本の素晴らしい技術を途上国に伝える	連携性	多面的・総合的に考える力	1 人
		人の役に立つ仕事をする	未来像を予測して計画を立てる力		1 人
		どの国にも平等に接する	公平性		1 人

(2)学習後振り返り作文より　　　　※ 2.単元の目標、3.ESD の視点に関連するものを< >で示す

<A>お互いの文化を教え合ったり、行ったりすることです。お互いの文化を教え合うことで外国のお祭りや言葉を知り、仲を深めることができるからです。行うことでコミュニケーション力も高まります。
<B.C.F>JICA は、児童労働をしないと生活できない子どもたちのために、技術協力や資金協力をしていることが分かりました。クリル貝の種苗を育て、子どもたちが手間のかかることをしなくてもいいようにいろいろ考えたのはすごいと思いました。日本人の活動を私は誇りに思いました。
<D>私が一番びっくりしたのは、年中気温がほぼ同じで、家のつくりが違うことと、あんこが本当に甘くないことです。びっくりすることが多いので、もっと知りたいし、逆に日本のことも知ってもらいたいです。
<E>二度と戦争を起こさないように外国の人々と仲良くなるきっかけを作るアイディアがあります。<中略>日本は地震などの自然災害がとても多い国なので、災害を乗り越えた経験を生かして、他の国を助けられると思います。日本が他の国を助けると、日本が災害に苦しんでいるに、世界中のいろいろな国から助けが来て復興が早くできると思います。こうすれば、国どうしで助け合えるし、外国との交流も増えて外国の人々と仲良くなれるし、ずっと戦争が起こらないと思います。

9　授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

(1)成果と課題(Check)

成果		以下の児童の変容により、「多面的・総合的に考える力」の伸長が見られた。
	児童の変容	・上記8の(1)より、実践後の振り返り作文の分類項目 10 分類から 15 分類へと増加し、また、8(2)のようにESDの能力・態度、ESDの視点に関する記述が多くみられるようになった。 ・授業前のアンケートに比べてより具体的な方法の記述がなされ、自身のコニュミケーション力の向上など、今後の自分の生き方についても前向きに考える様子がうかがえた。 ・8(2)<E>のように、防災教育の学習で考えたことをもとに、相互依存が大切な考え方であることに気づくなど、様々な社会事象を相互に関係づけている児童がいた。
	考察	「児童の思考の流れを意識した単元構成を組んだこと」が特に成果につながったと考える。ププサ試食からトウモロコシ栽培の児童労働、そして、クリル貝採集の児童労働から可児専門家の活動につなげたことは児童の思考の流れに沿っていたといえる。その中で、単元の目標、ESD の視点である<A～F>を達成するための活動を取り入れたことが成果に結びついたと考える。
課題		「多面的・総合的に考える力」の伸長は見られたが、「批判的に考える力」の育成に取り掛かれなかった。提示資料を解釈し、組み合わせて考える力は高まったが、一つの事象について自ら分析し、様々な立場があることを認識し、資料を収集するという活動を組むことができなかった。つまり、与えられた範囲内でなく、自ら問題を発見し、解決するという「批判的に考える力」の育成が課題である。

(2)課題の改善策(Action)

「批判的に考える力」は、「多面的・総合的に考える力」の延長線上にあるととらえ、以下を改善する。

①社会問題を構成する複数の立場を発見し、自ら調べ、考えを練り上げる話合い活動の充実
本実践では、与えられた複数の事象の関係性を考えることを通して、多面的・総合的に考える力の伸長を図ることができた。今後は、本実践のようなことを基礎トレーニングと位置づけ、複数回実践し「ものごとは様々な事象と関係している」ということを経験則として抑えたのち、例えばフォトランゲージから社会問題を発見し、その問題を構成する複数の立場を想像する。そして、正しく判断・思考するための資料を収集する活動を重視する。さらに、ワールドカフェ方式で話合い活動を行うなど、効率よく児童が考えを練り上げられる話合い方法を工夫することで批判的に考える力の育成を図っていく。
②多面的・総合的な考えの元となり、批判的に考える力の育成に資する題材の開発・精選
話合い活動を充実させるためには、話合いの元となる資料の精選がかかせない。児童実態に即し、多面的・総合的な考えの元となり、批判的に考える力の育成を図れる学習の題材や提示資料の開発・精選に努める。今回、グラフなどの資料と現地の写真からその因果関係を明らかにする手法は、多面的・総合的にものごとを考える力の育成に関連して手応えを感じたので、さらに研究を深める。

10　教師海外研修に参加して

「可児さんがエルサルバドルで児童労働の解消に向けて貝類養殖技術協力をしていることを知って、私は誇らしくなりました。」とは公開授業後の児童の感想である。実は私も同様なことを今回の教師海外研修で感じた。エルサルバドルの諸問題に対し、現地の方とともに解決に尽力しているJICA専門家・ボランティアの方々を大変誇りに感じた。グローバル化の中、ともすると経済競争ばかりに目が行きがちであるが、「世界の人々とともに問題解決にあたること」は人生をかけるにも値する素晴らしいことだと思う。今後もこのことを子どもたちに伝えていきたいし、自分自身も行動に移したいと考えている。